

運送会社の皆様へ

東京九州フェリー利用のメリット

- ① 労働時間が削減できます
- ② 環境問題が解決できます
- ③ 経済合理性で優位です



① 労働時間が削減できます

労務問題の視点

- 2024年4月1日から「働き方改革関連法」の自動車運転業務への適用が、適用開始され、時間外労働上限規制が年間960時間に、月当たり換算80時間となります。
- 輸送の途中において有人車航送でフェリーに乗船する場合、フェリーの乗船時間は、**休憩時間として取り扱うことができます。**
- フェリーの所要時間を有効利用することにより、厚生労働省の改善基準告示で定められた**1ヶ月の拘束時間上限（原則293時間）を遵守しやすくなります。**

項目	内容
拘束時間	1ヶ月 293時間 、1日原則 13時間 最大 16時間 （15時間越えは1週2回以内）
休憩時間	継続8時間以上
運転時間	2日平均 で1日当たり 9時間 、 2週平均 で1週間当たり 44時間
連続運転時間	4時間以内 （運転の中断には、1回連続10分以上、かつ合計30分以上の運転離脱が必要）

- 船内には**トラックドライバー様専用の設備**があり、快適に過ごしていただくための客室・レストラン・浴室を整えていますので、陸送の場合における過重労働を回避することができます。

ドライバーズルーム

ドライバーズレストラン



ドライバー浴室



② 環境問題が解決できます

東京－福岡間の輸送でのCo2排出量比較

環境問題の視点

Co2排出量を約70%削減することができます。

10トン車の場合	距離	Co2排出量
陸送	1,091km	2,454kg
フェリー-有人車輸送	フェリー-976km + 陸送163km	767kg

- エコシップマークの取得により、地球環境問題に積極的に取り組んでいる企業としてPRでき、企業評価が向上します。



<エコシップマーク認定条件>

原則100km以上の航路（沖縄、離島、青函航路を除く）において

- ・海上貨物輸送（トンキロ）20%以上を利用した者
- ・前年度に比べ、海上貨物輸送量（トンキロ）のシェアが10%以上改善した者
- ・海上貨物輸送を利用してCo2排出量を10%以上削減した者

③ 経済合理性で優位です

交通問題の視点

●有人車航送の場合

- フェリー輸送は**定時性**に優れており、**事故や渋滞に巻き込まれることがない**というメリットがあります。
- フェリーで移動している間に、トラックドライバーの方に十分な休息時間が確保でき、**事故率の低下**に繋がります。
- フェリー輸送することにより、**軽油代、高速道路の利用料、オイルやアドブルー等の消耗品**の費用を削減することができます。
- さらに走行距離の減少により、**タイヤの消耗と修繕費用**を削減することができ、車両自体の耐用年数を伸ばすことができます。

●無人車航送の場合はさらに経済合理性で優位です

- 直接的な費用である**ドライバーの賃金**が削減できます。
- さらにシャーシ輸送であれば、大型車より大量輸送が可能であり且つ前述の各種コストが削減できるため、フェリー航送料を支払ったとしても**大幅なコスト削減が可能**です。